

のようにして書かれたのですか。

—そうですね。それに加えて、気象局の観測網のデータだけでは不足で、「究極の必要最小限風向記録計」(ultimate minimum wind-direction recorder) 等も設計・製作して観測網を密にしました。

問：どのようにしてケンブリッジ大学の DAMTP に来ることになったのですか？

—当時、ケンブリッジには重力流の論文を書いたブルーク・ベンジャミンや成層流体中の混合の実験をしていたスチュアート・ターナーがいました。もちろん、レディングにも優れた人は多くいましたが、様々な議論をする為にはケンブリッジはとても有益で、しばしばケンブリッジにやってくるようになりました。そのうち、驚いたことにターナーから DAMTP に招かれたのです。丁度彼がキャンベラのオーストラリア国立大学に教授として行く前の年のことでした。それ以来、DAMTP に現れた人をつかまえては重力流の話をして暮らしています。DAMTP に来て一番良かったと思うことは、私の部屋で外来研究員として机を構えた数多くの人達が、常に私の仕事に興味を持ってくれ、私の抱いた素朴な疑問に一生懸命答えてくれたことです。その内の何人かの人達は、実際重力流の様々な側面について一緒に仕事をすることになりました。

問：我国では、室内実験に興味を持つ気象研究者の数が徐々に減っているように思いますが、博士にとって室内実験の魅力とは何でしょうか？

—数学的記述の及ばないような現象でもはっきりと、しかもうまくすると非常に美しい形で、目でみることができ、現象の理解が得られることでしょうか、また、室内実験は単純化した問題設定で行うことが多いのですが、私の研究している重力流を例にとるとその応用範囲は海陸風前線に始まって、積乱雲のガスト・フロント、海洋の底面上の泥流、雪崩、火山の溶岩流等と極めて幅広いことがわかります。室内実験をやっていたおかげで、幅広い現象に興味を持つようになりました。計算機が発達した現在、相対的にお金のかかりがちな室内実験のウェイトが低くなりつつあるという見方もありますが、過去の多くの新しいアイデアは非常に単純でお金のかからない室内実験から出てきているように思います。最近、地質流体力学のハバート博士のグループは、簡単な室内実験から数多くの新しい成果をあげつつあります。

同僚のポウル・リンデン博士は「ジョンは非常に限定された男だ (determined person)」と敬愛の念をこめて評します。確かにジョンと話しているといつの間にか話題が重力流のことになってしまっているのには驚かされます。しかし、このあくなき重力流に対する興味が一人のアマチュア科学者を DAMTP に導き、67才にしてケンブリッジ大学から博士号を得させる原動力になったことは確かでしょう。博士の今後の御健康と御活躍をお祈り致します。

(気象研究所・物理気象研究部 新野 宏)

## 平成元年度技術士第二次試験のお知らせ (技術士法に基づく技術士になるための国家試験)

受付期間：平成元年3月25日～4月7日

(郵送の場合は締切日の消印まで有効)

筆記試験日：平成元年8月23日(水)・24日(木)のうち1日

筆記試験地：札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・福岡・那覇

口頭試験日：平成元年12月上旬～中旬のうち1日(筆記試験合格者のみ)

口頭試験地：東京

受験資格：次のいずれか1つに該当する者

(1) 科学技術に関する専門的応用能力を必要とする事

項についての計画・研究・設計・分析・試験又は評価の業務に従事した期間が通算して7年を超える者  
(2) 技術士補として技術士を補助したことがある者でその補助した期間が通算して4年を超える者

(注) 学歴、年齢の制限はありません。

◎本年度から「生物工学部門」が新設されました。

受験申込書請求先：社団法人日本技術士会技術士試験センター

〒105 東京都港区虎ノ門 2-8-10 虎ノ門第15森ビル  
TEL. 03 (591) 7110(代)